



4月8日志津川小学校の平成31年度入学式が開催され、23人(男10人・女13人)の元気な新一年生が入学し、初めての行事にのぞんだ。震災の2年目に生れた児童にあたる。

今年度就任した工藤吉則校長のあいさつでは、「入学おめでとうございます」と新入生に語りかけた。そして「ありがとうございます」と新入生と一緒に感謝の言葉を父母に送った。新入生への「3つのお願い」では、1. あいさつや返事をしっかりしましょう。2. 自分の事は自分でしましょう。3. 友だちとなかよく勉強したり遊んだりしましょう。と伝えた。早く学校になれるように、「がんばって下さいネ。」と話した。



祝辞は、町長の代読で最知副町長が立ち「心まことにしていた入学、ピカピカの一年生、少しドキドキしていませんか」と語りかけた。入学生へのお願いでは①先生の話をよくきく事。②学校のきまりを守る事。③友だちと仲良くすることと伝えた。ご父母には「南三陸町、この国の宝です。大切に育てていただきたい」と締めくくった。

歓迎の言葉では、在校生を代表して高橋さんが「志津川小学校はとても楽しい学校です。運動会や学芸会を楽しみにしてください。」と話した。



4月8日志津川中学校体育館にて、志津川地区の入谷・戸倉・志津川の小学校から75名(25名3クラス)の新入学生を迎えた。壇上に整列した新入生は一人ひとり名前が呼ばれ、緊張感いっぱい入学式に臨んだ。

三浦校長の式辞では、「志中生として入学式に臨んで気持ちはどうでしょう。大きな期待を持っていると思います。」と語りかけた。生徒帳も配布され「自分で考え行動するのが中学生であり、中学校は大人になるための学校で、地域に尊敬・信頼され愛される人間に、創造的な教育活動を目指していく」と述べた。

祝辞では、佐藤町長が「平成の元号で最後の入学式となる。」と話し、「友だちの輪を広げ勉強・運動に取り組んで欲しい。」「共に支え合いながら、一日一日を有意義に」と言葉を送った。

PTAの山内会長は「夢と希望に満ち溢れ、いろいろな

事に挑戦してほしい」と語った。

歓迎の言葉では、在校生を代表して三浦和佳子さんが「笑顔あふれる中学校生活に」「部活動は一生の思い出になります。」「共に高め合いながら頑張っていきましょう」と新入生に話した。誓いの言葉では新入生を代表して、千葉倫佳さんが「たくさんの事を学び、将来の事を考えたい」「楽しみにしている部活動」「思いやりを持って中学校生活を送りたい」と答えた。



南三陸町人口の推移

(平成31年4月末現在)

	南三陸町	志津川	戸倉	入谷	歌津
22年3月	17,815	8,294	2,433	1,907	5,181
30年3月	13,141	5,374	1,428	2,006	4,333
31年4月	12,792	5,229	1,399	1,937	4,227
30年3月からの増減数	-349	-145	-29	-69	-106
31年4月の増減数	-45	-20	-6	+1	-20

(2019年5月の新聞記事より)

未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

平成31年(2019年)

1月の出来事

～地元報道より～

南三陸町

◆バイサイドアリーナ駐車場で、南三陸町消防団と交通指導隊の出初め式が行われた。町民の安全を守るために、今年も団結していくことを誓った。

◆南三陸町は7日、地域おこし協力隊に新たに1人を任命した。山形県出身の佐々木道彦さん(45)で、町内で11人目の隊員となった。

◆被災地支援で徳島県から南三陸町に贈られた移動図書館が、7日から運行を始めた。2代目の「たんぼぼ号」として運行を開始し、アニメキャラクターが描かれた車で災害公営住宅を回り、楽しみに待つ町民に本を届けた。

◆6日三陸道(南三陸海岸IC～歌津IC間)下り線で、午後5時27分頃清水トンネル内で、11トントラックの一部が損傷する火事があった。火災によって午後9時までの間、上下線で通行止めとなった。

◆南三陸町は今秋完成を目指す「祈りの丘」は、犠牲者を追悼・慰霊する場所となり、名簿を安置する。名簿を作成するため、氏名などの記載に同意するかどうか遺族にも意向確認を行なっている。

◆志津川魚市場が県内で初めて、一般社団法人大日本水産会「優良衛生品質管理市場・漁港認定」を受けたが、認定後最初の更新時期を迎えた。認定の有効期限は1年、その後は3年となる。

◆南三陸商工会は16日から「創業塾」を開講する。町内で創業を予定している人や、創業からおおむね5年以内の人が対象。

◆自慢のカキとタラにちなんだメニューを提供

する「冬の美味しいカキを味わってタラキャンペーン」を南三陸商工会が11日から始めた。町内16店舗が参加し、期間は2月20日まで。

◆南三陸町で13日、平成最後となる成人式が行われた。新成人153人のうち136人が出席した。新成人の誓いの言葉、成人の抱負が発表され、記念講演はエッセイストでタレントの小島慶子さんが講演した。

◆受験シーズンを前に、南三陸町入谷のYES工房で「ゆめ多幸鎮オクトパス君」の受注がピークを迎えている。2月中旬ごろまでが最も忙しい時期。

◆南三陸町歌津の寄木地区に伝わる小正月行事「ささよ」が、15日行なわれた。ささよは、約250年前の江戸時代から続く町の無形民俗文化財。今年は小学校2年生から中学1年生までの4人が、厳寒の中法被姿で46軒を回った。

◆東日本大震災で被災した南三陸町と気仙沼市の老舗かまぼこ店2社の若手経営者が新会社を立ち上げた。新商品は、これまでむずかしいとされてきた常温での保存を可能にした「かまぼこ」。

◆防災集団移転団地の空き区画について、常時申込みを受け付けることに変更した。被災者以外の世帯にも広く呼び掛け、今後は先着順で申し込みを受けるため、決定まで期間が短く、住宅建設を進めやすくなる。

◆南三陸の海のビジターセンターによる「みちのく潮風トレイルパトロール in 入谷」が、「校舎の宿さんさん館」周辺で26日午前9時から開かれた。入谷集落を通るコースを歩き、巨石や巨木など見どころの多い入谷の魅力にふれる。

◆20日志津川仮設魚市場で志津川湾寒鰯・牡蠣まつり福興市が開かれた。13店舗のブースでは白子のでんぶらやタラのフライなどが人気だった。タラ汁、カキ汁なども来場者の冷えた体を温めた。

◆東日本大震災で被災して再建された南三陸町

役場本庁舎が、日本ファシリティマネジメント大賞の特別賞に選ばれた。再建された役場本庁舎は、従来の行政機能に加え、町民の交流や憩いの場となる「マチドマ」を設けた点を評価された。

◆南三陸町の南三陸ホテル観洋で、夜空を楽しんでもらう「スターパーティ in 南三陸」と題した観察会が、2017年1月からスタートしている。2カ月に1度のペースで開催しているが、今後は月1回のペースで開催される。天文ボランティアが開設してくれる。

◆東北電力女川原発での事故発生を想定した原子力防災訓練が、24日行なわれた。小学校や保育所の屋内退避、災害対策本部の運営訓練を展開し、万一の事故への対応を確認した。

◆23～26日まで台北市立金華小学校の児童や教職員ら34人が、町を訪れた。25日は名足小学校で全校児童48人と交流。一行は志津川小学校や南三陸さんさん商店街を訪問したほか、台湾からの支援で再建された南三陸病院にも足を運んだ。

◆東日本大震災の海岸の環境について考える「海辺のセミナー～7年目のいまだから、私たちの海辺を考えたい」が、南三陸町戸倉の南三陸・海のビジターセンターで27日開かれた。岩手県立大学の島田直明准教授が、砂浜の海浜植物と防潮堤建設との関係などについて解説した。南三陸町をはじめ、気仙沼市や石巻市などから約30人が参加した。

◆南三陸歌津の合同会社(でんでんむしカンパニー)が、染め物などに使われる「藍」を乾燥させたお茶を商品化し、「あい茶」のネーミングで昨年12月以降、町観光協会アンテナショップなど町内2カ所で、売り出している。

◆南三陸町の八幡川・水尻川で行なわれた今シーズンのサケ捕獲作業は、昨シーズンの3倍となる親魚を確保して終了した。同町では、2015年小森ふ化場が復旧。ふ化した稚魚の育成は順調で、河川への放流は例年通り2月中旬に始める予定。